

今日、ちょっと声がかれてるでしょ。2時間ほど前、上の部屋で準備していたのですが、準備中に4件も電話がかかってきたんです。誰も取らない。緊急の用事だったらあかんと思って、つい取ってしまうんですね。元営業マンやし。

皆さんYouTubeを見ている方で、「今日、ありますか?」とか色々質問なされたんです。でも話し手が私だと悟られると、多分話が盛り上がると思うんですよ。「高原さんですか! 実は質問があつて」とか。私、余裕があったら、話好きやから、ゆっくり対応させていただきたいのですが、もう必死のPATCH。今日何を話したらいいかと、お尻に火が付いて追われている。なので、ここは私だと悟られないように、声色変えて(ハイトーンボイスで)「はい。東住吉キリスト集会です。」それを4回やった。しまいに喉を潰して、今ものすごくヒリヒリと痛いのです。もう偽るの嫌なので、白状したので、電話の方すみませんでした。実は私でした。

4件の内3件は同じ質問。今日は「ざっくり黙示録シリーズ5」ですが、YouTubeでは4が飛んでると。アップされてない。よっぽど4の内容が際どくて、全編ピー(音声消去)ちゃうか? 自分は漏らさないからCD売ってくれと。基本的にYouTube動画はCD販売してません。それは、自分でお好きになさってください。

「なんで4がないんですか?」2週間後に上げます。その前に1本あつて、それを上げてから順番にアップする事にしてあるんです。ストックはあるけど、毎日のように上げない。新しいのを週に1本ずつと決めてるんです。

私は全国を飛び回って聖書のお話をしますが、先日も青森に行った時に言われたんです。「今日の内容はYouTubeで聞いた。」「遠い所から来たのに、内容が大分かぶってた。」ガッカリしている様子がすごく伝わって来て、それを聞いて、私もがっかりしたんですけど。最近、言う事がなくなって来たんです。そうそう新しい事連発して、毎回まっさらの、言えませんよ。だから週に1回。決めてある。なので、ちゃんとアップするので待っててください。そして、皆さんのお住まいの町々に行った時には、かぶっていてもそっとしておいてください。そういう批判が、ものすごく気になるんですよ。

という事で、今日はシリーズ5。月に1回ペースなので、「黙示録1章は何だったっけ?」と忘れてる方もおられると思うので、まず復習したいと思います。

ヨハネの黙示録は聖書全体の最後の書物、つまり聖書全体の結論と言っていいでしょう。聖書は旧新併せて66巻なので66番目。1巻から65巻までは、66番目の黙示録に流れ込んでいます。聖書全てをまとめている要・結論のような箇所が黙示録です。

黙示録 1:1 イエス・キリストの黙示。

神はすぐに起こるべきことをしもべたちに示すため、これをキリストに与えられた。

すぐに起こるべきこととは、まだ起こっていないけど、必ずそうなるに違いないと決まっている事。つまり、未来に関する預言書です。今はまだ実現していない。しかし、歴史のゴールは黙示録に書いてある通りの事が必ず実現します。

すぐにとありますが、今から約 2000 年前の AD95・96 年に書かれました。それから 1900 年くらい経っていて、まだなっていないじゃないか。

すぐの意味は、それが起こり始めたら**すぐに**、全てが実現するという事。ちょうどドミノ倒しみたい。1つ目のドミノがパンと倒れたら、ズラーっと最後のゴールまで一気にいくじゃないですか。これから将来にどんな事が起こるのか、それは神の主権の下でどんな意味があるのか、それを前もって知らされている意味は何なのか、という事です。

宛先は、**黙示録 1:4 ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。**

この**アジア**は、日本がいるアジアではなくローマ帝国アジア州。

現在のアナトリア半島・トルコ共和国辺りです。そこに**七つの教会**がありました。

そのリストが、**黙示録 1:11 その声はこう言った。「あなたが見たことを巻物に記して、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ、サルディス、フィラデルフィア、ラオディキアに送りなさい。」**

エペソから始まって**ラオディキア**まで、**7つの教会**に向かって語られます。

何を語られるのか？ こうなると前もって聖書に預言されていた事は全部実現したのですが、まだ実現していない事で、次に起こる事は一体何か？ はっきりしています。**携挙**です。

携挙とは引っ張り上げられるという意味で、やがてキリストが、本物のクリスチャンだけを一瞬にして空中に引き上げて、そのまま天に連れ帰るのです。その瞬間、今までいたクリスチャンは皆、姿を消します。一瞬なので、右向いて左向いたら、今左側にいたクリスチャンがもう見えない。全てのクリスチャン。それは名目上のクリスチャンではなく、本当に救われている本物のクリスチャン。それが皆、瞬間的に、この世界から引っ張り上げられます。そこで、クリスチャンを**携挙**に備えさせ、準備させるために、神様は前もって**ヨハネの黙示録**を語ってくださったのです。

七つの教会には3つの意味がありました。

1番目の意味は、これらは黙示録が書かれた時点で実在していた教会である事。

エペソ教会も**スミルナ教会**も本当にありました。それぞれの時代に存在していた教会宛ての手紙です。非常に直接的には、そういう意味です。

「2000 年前の教会だから 21 世紀の私たちには関係ない」と思ったら、そうではない。

黙示録 2:7 耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。

これは**エペソ教会**に宛てて語られたところで、締めくくりの言葉ですが、「**耳のある者は、御霊がエペソ教会に**」ではなくて、**諸教会**と書いてある。**諸教会**とは全部の教会です。

エペソ教会宛ての内容なのですが、それは、全ての教会が耳を澄まして聞くべき内容だというわけ。

なぜ**エペソ教会**に語られている言葉を、他の教会が耳を澄まして聞く必要があるのか？

ここに出て来る**7つの教会**は、地上にある教会の7つの型と見る事ができるのです。

あらゆる時代・あらゆる世界・あらゆる国に教会がありますが、クリスチャンの共同体・神の教会は、**7つの教会**の特徴のどれかに当てはまります。ドンピシャではないけど、大体の傾向はこの7つのパターンのどれかによく似ている。自分の教会はそのどれかに似ているのだから、2000 年前の教会に宛てた言葉は私たちに適応できる。

それで、今生きているクリスチャンに非常に有効な神の言葉となるのです。これが2番目の意味でした。

3番目の意味は預言です。黙示録は、やがて起こるべき事について95・96年に書かれた時点から、どんな歴史を辿って、最後携挙を迎えるのかを7段階に分けて語っています。

厳密に言うと、7つの教会は3つと4つに分ける事が出来て、後半の4つの最後は携挙について触れているので、その時代の教会の特徴が携挙まで続くと考えていいと思います。

最初に申し上げたいのですが、前回スミルナとペルガモンをやって、1つ分かった事があるんですよ。それは、1回に2個やるとしんどいという事。聞く皆さんもしんどい。準備する私、もっとしんどい。という事で、今日ティアティラとサルデイスと書いてありますが、ティアティラだけで終わります。ティアティラだけで終わっても、90分くらい行くと思いますよ。「最近長いぞ」という声があるので、短くするように努力します。ティアティラだけ。

黙示録 2:18 また、ティアティラにある教会の御使いに書き送れ。

ティアティラは地名です。前回紹介したペルガモンから65キロくらい下った所にある、ペルガモンよりはるかに小さな商業都市ですが、羊毛（ウール）と染料が特産品の繁栄した町。そこにある教会。教会はギリシア語でエクレシア。神様がこの世から取り出して、召し出した人たちの共同体の事。神によって召し出されたクリスチャンの共同体が教会です。

初めに申し上げたいのは、パソコンの前で、YouTubeなどでイエス・キリストを信じたという方もたくさんいらっしゃるでしょう。それはいいのですが、是非、特定の地域教会に集い、正式なメンバーとして加わる事を強くお勧めしたいと思います。というのは、聖書がそれを強く強く勧めているからです。

先日、面白いニュースを見ました。ある地方自治体が日本のこの夏、金鳥の夏じゃない。この蒸し暑い日本の夏、役所なのに室内設定温度を25℃にした。環境省はCO₂削減のために、真夏のクーラー設定温度は28℃と提唱してます。それで全国の地方自治体は、それに準じて28℃に決めている。

ところが姫路市役所は25℃。なぜ、そんな無駄な事をしたのか？

ある社会学者の研究によると、設定温度が25℃から28℃になると、作業効率が確実に6%落ちるというデータがあるんです。それで、7月16日から8月31日まで25℃。冷や～。

どうなったか？ 残業時間21.6時間が18.7時間に減った。アンケートで業務効率が上がった人85%。

それって…。そして電気代がバーンと上がった。7万円。ところが市長が言いました。

「確かに、光熱費は前年度から7万円アップしましたが、残業減少で賃金が4千万円削減出来ました。」7万で4千万のリターン、おいしくない？ もしそんな株あったら買えへん？ 7万の投資で4千万戻った！これは非常に試してみる価値がある事だ、と公表に踏み切ったのです。

CO₂の増加分も非常に軽微であったと言われています。

ここから分かる事は、人間は意思の力で頑張ろうとしても限界がある。意思の力で、根性論で、頑張っ、とにかく作業能率上げるんや！ 28℃でガーっやるよりも、25℃の涼しい所でやる方がスラスラ！意思の力よりも環境の力なんですね。

何が言いたいかというと、イエス・キリストを信じた者にとって、この世界は真夏の大阪、設定温度30℃の世界で頑張っって生きるようなものなんです。

ここも今クーラーが効いてる。中には寒すぎるという方がおられるかもしれませんが。
この世で真実に生きて行こう・キリストに信頼して生きて行こう・神の前に胸を張って堂々と出れるよ
うな生き方をしよう。そんな事言って生きてたら、この世の中では疲れますよ。霊的脱水状態というか。

私らクリスチャン仲間が集まった時は「国際情勢・携挙について」や「自分の賜物って何?」とか、人生
の目的について話す。中には、ラーメンの事ばかり話している人もいますけど。
でも、クリスチャンはそんな深淵な話が真面目に出来るんです。

会社で「人生の目的とは…。課長、永遠についてどう思いますか?」パンチ!みたいな。
「お前、どないしてん?」「お前、鬱か?」とか言われませんか? 私の友人で、ほんまにそう言われた人いる
んですよ。「なんで、そんな事考えてんねん? 頭、おかしなったんちゃうか?」

実は私たち、真面目な事を話したいと、案外思っているんじゃないですか?
でも、そんな赤裸々な話や、魂の深い問題について分かち合うのは中々難しいかも知れません。
教会はそれが出来ます。霊的に深呼吸が出来るような、空調がガンガンに効いているような環境。
ガンガンに効いてたら、ちょっと健康に悪い。ほど良く効いている環境。それが教会ですよ。
なので、心からお勧めしたい事は、クリスチャンになったという人は教会に行ってください。
自己流信仰じゃなくて、教会に行く事をお勧めしたいと思います。

まだクリスチャンでない方も、自分一人で聖書を読むというよりも、やはり教会に行って、色んな先輩の
クリスチャンからアドバイスを受けてたり、刺激を受けたり、祈ってもらったり、色んな事を通して、「聖
書ってそういう事なのか!」と目が開かれて来る事が多いと思います。
なので、一般論・原則論として、教会に加わる事は聖書が強力に勧めている事なんです。

ところが、教会と言っても色んな教会があって、はっきり言って、行かん方がいい教会もあります。
行け言うたり、いかん言うたり、どっちやねん!

これらの **7 つの教会**は、互いに 100 キロも離れてません。近所。それなのに、めちゃくちゃバラエティ
に富んでるわけ。

今日の**ティアテラ教会**をひと言で言うと、全然クリスチャンじゃない人がクリスチャンの指導者とな
って、キリストの名を使いながら、聖書に反する事・反キリスト的な内容を教え、それによって教会内が
大混乱し、墮落していく教会です。御言葉で見てください。

黙示録 2:18 燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝く真鍮のような神の子が、こう言われる。

ここで、まずキリストの自己紹介。**燃える炎のような目**、何を思い出しますか?
僕は『巨人の星』の星一徹(ほし いってつ)。目、ボワツと。或いは、花形満(はながた みつる)と対戦す
る時の星飛雄馬(ほし ひゅうま)。目からボワツと火出て。何か対決するとか、裁きが下るような**燃え
る炎のような目**。

そして**真鍮**(しんちゅう)、銅の合金ですね。聖書で青銅・銅の合金は裁きを意味します。
いけにえを焼き尽くす祭壇の材質は青銅です。燃える蛇は青銅製。まむしみたいなのに噛まれた時に助
かった、あの蛇の材質。裁きなんです。

だから、燃える炎のような目、真鍮の足でイメージできるイエス・キリスト像は、親し気で・涼し気で・穏やかで・ホッとできる姿というよりも、むしろ、見た者に恐れを抱かせるような姿として、この教会の前に立っているんです。何がキリストをその姿にさせているのか？

その問題点に触れる前に、キリストはまず褒めるんですね。

**黙示録 2:19 わたしは、あなたの行い、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っている。
また、初めの行いにまさる、近ごろの行いも知っている。**

この教会は成長している教会です。なぜ分かるかというと、初めの行いにまさる、近ごろの行いも知っている。発足した時よりも今の方が、より優れた良い働きをしているんですね。いつまでもずっと信じた時の水準で留まっているんじゃないくて、前よりもはるかに良くなっている。その意味では成長している教会。

キリストがまず、特に褒めている事は、あなたの行い、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っている。わたしはあなたの愛を知っている。聖書で一番価値があるものは、たくさんの外国語を喋れる事でもなく、持ち物を全部投げ出してしまう事でもなく、殉教する事でさえもない。「一番価値があるのは愛です。愛がなければ、何の役にも立ちません。」と書いています。ティアティラ教会は、最初に「わたしはあなたの愛を知っている。あなたはわたしを愛し、多くの人を愛している。」キリストは大いに評価しています。

ところで、愛は一步間違うと、人間的なものにすり替わってしまうと、裏目に出ますね。柔和な人はすごく素晴らしいけど、一步間違うと、優柔不断な人に落ちますよね。正義感の強い人は、一步間違うと、人を裁きまくる人になりますよね。長所は一步間違っただけで、ものすごい短所になります。逆に私の短所も、修正されたら長所に変換出来るかもしれないんです。

ここで愛が評価されているけど、愛も一步間違うと、ダメなものをダメと言えなくなったり、怒るべき問題に直面しているのに、ちゃんと怒れなかったりする。また、処分すべき事を手控えたりする事が愛であるかのように誤解して、問題をほったらかしにするなら、それはもう愛と言う事は出来ない。弱さです。

**黙示録 2:20 けれども、あなたには責めるべきことがある。
あなたは、あの女、イゼベルをなすがままにさせている。**

イゼベルは、本当にそんな名前の女性がいた可能性はあります。聖書は基本的に、額面通りに受け止めるべきですから。でも、このイゼベルは旧約聖書に登場する有名な女性で、神に対する冒涇者。王様に取り入って、霊的に内面からズタズタにしていった女。だから、その事を印象付けようとしているのかもしれませんが。あの女、イゼベルをなすがままにさせている。自由に気ままに振る舞わせている。あなたは止めてないじゃないか。なすがままに何をさせているのか？ 3つの事です。

黙示録 2:20 この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて惑わし、淫らなことを行わせ、偶像に献げた物を食べさせている。

わたしのしもべたちはクリスチャンの事。惑わしには「騙す」という意味もあります。この女はクリスチャンを騙している。

ここでまずハッキリさせたいのは、この女とわたしのしもべ(クリスチャンたち)を区別している事です。つまり、この女はクリスチャンではない。彼女はティアティラ教会に、外から入り込んで来た人物。

預言者だと自称しているという事は、自分で言っているだけで、偽預言者です。預言者の「預」は預かる。予言ではなくて言葉を預かった者。誰の言葉かというと神の言葉。預言者は神の言葉を預かった者。ティアティラ教会に最初から伝えられている聖書の真理以外に、「私は新たに神の言葉を預かって、新しい啓示を貰いました。今までの啓示に、この新しい神の言葉を付け加えて、それで新たに解釈してください。」

聖書でないもの・反キリスト的なもの・反聖書的なものを持ち込んで、わたしのしもべたちを騙した。すなわち、本当のクリスチャンではない人が教会の指導者になって、聖書に反対する内容を預言と称して教え騙している。

具体的にどんな間違った教えか? 多分、当時大流行していた異端です。

黙示録は95・96年に書かれましたが、この1世紀に大流行した異端がグノーシス主義。グノーシス主義はギリシア哲学と聖書の考えをブレンドした考えで、よく「霊肉二元論」と言われます。「霊」は目に見えない精神・心・魂の部分。「肉」は物理的なもの。ボディの事。

ギリシア人は「霊は尊いが物質・物体・肉体は価値がない」と教えました。だから、彼らにとって死ぬという事は、ある意味、いい事だったんです。「霊という価値あるものが、肉体という牢屋の中に閉じ込められている状態、これが生きている状態だ。霊には価値がある。だけど肉は無価値。」

人間は肉体において様々な罪を犯します。姦淫・貪欲・嘘・盗み・殺人・暴力、様々。グノーシス主義の人たちはこう言いました。「キリストは私たちが肉体において行う全ての罪を、十字架にかかって全部赦し、全部取り除いてくださった。なので、一旦キリストを信じて罪を赦された者は、今後肉体において、どんなひどい事をしてオッケーです。それは、霊に何の影響も及ぼしません。」キリストは罪を赦したから、もう罪を犯してもオッケー。

昔『ゴッドファーザー』見ました? 僕は何回も見ました。分かっているのに、ハワイに行く時、古典名作でやっぱり見てしまう。あまり見ない方がいいと思います。見た後で影響受けて、ちょっと横柄な態度になっている。「殺っちまえ」とか。

あの中に、殺し屋がいっぱい出て来て、バーツと殺して「主よ、赦してください」と言っておしまい。カトリック。そして、また殺す。「主よ、私を赦してください。」赦された。これは、クリスチャンとは言えません。

「肉体でやった事は、キリストが全部赦しているから、どんなにひどい事をやっても、私の霊・私の永遠のいのちには影響を与えない。」恐るべき考えですよね。これがグノーシス主義。それでもオッケーと教えられたらどうなるか? 当然、淫らなことを行うようになる。

聖書は二元論ではなく一元論。聖書に書いてあります。「人間は3つのもので出来ている。霊・魂・体」。説明では霊・魂・体ですが、3つで1つの三位一体です。神は三位一体のご自分のかたちに似せて、人間を霊・魂・体で1つの人間に造りました。つまり、霊・魂・体、トータルで1つの存在です。霊は霊、肉は肉、魂は魂、そうじゃない。

新改訳第3版の聖書には、**あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。**（体を献げなさい。）**それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。**（ローマ12:1）

「自分の体を用いて良い事をするのは霊的な礼拝です」と書いてある。つまりトータルなんです。肉体的にしんどいと、内面も影響を受けるんじゃないですか？内面に深い喜びや平安があると、外側も影響を受けて来るんじゃないですか？トータルで一つ。ところが「そうじゃない。二元論だ」と教えて「罪は何度やってもオッケー」と。

その結果、**淫らなことを行わせている**。すなわち、**ティアティラ教会**の中で、不道德な事がまかり通っている。教会の中で、はっきり書いてないけど、不倫とか姦淫とか飲酒とか、ぐでんぐでんに酔っ払って、何をやるのがオッケーとなってしまう。そうなると、教会と言ってもこの世の酒場と変わりありません。これが教会か？と。なぜそんな事になったかという、「間違っただけを神の言葉として教え込まれてしまったからだ。」

コンピューターでGIGOという言葉があります。Garbage In, Garbage Out/ゴミを入れたらゴミが出る。どんなに高性能のコンピューターでも、ゴミのようなフェイクニュースの間違った情報をずっと入れて行くと、それに基づいて演算するので、出て来る結果もゴミの結果。善良なクリスチャンに、間違っただけをずっと浴びるように聞かせていたら実を結びません。おかしい事になって行きます。

最終的に、とんでもない事を始めました。**偶像に献げた物を食べさせている**。聖書には「神をどんな形にもかたどって作ってはならない。偶像を作ってはならない」とあります。ところが、教会の中に偶像が建っている。偶像に肉を献げるのは、いけにえの動物の肉の事で、偶像のお祭り。教会の中で偶像祭りのような事を行い、それに参加する事が横行している状態。看板は教会だけど、中身は偶像教と一緒に。

黙示録 2:21 わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は淫らな行いを悔い改めようとしない。

素晴らしい神の恵みですね。ここまで教会を食い荒らしている**イゼベル**という女に対して、**悔い改める機会を与えたが、この女は淫らな行いを悔い改めようとしない。**

黙示録 2:22 見よ、わたしはこの女を病の床に投げ込む。また、この女と姦淫を行う者たちも、この女の行いを離れて悔い改めないなら、大きな患難の中に投げ込む。

黙示録 2:23 また、この女の子どもたち（信奉者たち）を死病で殺す。

「弟子」は弟と子供と書きますね。師匠の教えを忠実に踏み従って行く人を弟子と言います。**この女の子どもたち**、この女が出産したいたいけな子供たちではなく、この女が持ち込んだ、恐らくグノーシス主義を信奉して、振り撒き、布教して行く人たちを**死病で殺す**。誰が殺す？キリストですよ。

黙示録 2:23 こうしてすべての教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを知る。わたしは、あなたがたの行いに応じて一人ひとりに報いる。

意味は、恐らくこうだと思います。誰も手が付けられない状況の中で、誰が見ても偶然ではない、自然に起こったのではない、神の介入の裁きが教会の中で起こって、突然、この一団だけが打たれる。

超自然的な、ここに**死病**と書いてあるから難病というか、治らない病気に罹って、この人たちがバタバタと倒れて命を取られる。それを見た他の全ての教会の人は「これは明らかにキリストがなされた」と知り、恐れおののくのです。

これは、どんなに調べても歴史上出て来ないので、実際にこういう事がありましたと紹介出来ません。いくら調べてもなかったけど、実際あったんでしょ。書かれていますから。人が手出しできない時に、この教会を守るために、神がそのように打ったという事です。

黙示録 2:24 **しかし、ティアティラにいる残りの者たち、この教えを受け入れず、いわゆる「サタンの深み」を知らないあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせない。**

この教会に2種類の人たちがいました。

①自称預言者に従う自称クリスチャンたち。

②**ティアティラにいる残りの者たち**。残りだから多数派をイメージしないでしょ。少数派。つまり、**ティアティラ教会**は大部分が本当のクリスチャンではなく、極例外的に少数派のクリスチャンがいたという事。もちろん表面的には「ティアティラ教会のクリスチャンです」と名乗ってます。でも、神の目には誰が本物のクリスチャンで、誰がそうでないかは分かっています。「**わたしはあなたがた**（本物のクリスチャン）**に、ほかの重荷を負わせない。最低限の事でいいよ。**」

最低限の事とは、**黙示録 2:25** **ただ、あなたがたが持っているものを、わたしが行くまで、しっかり保ちなさい。**

わたしが行くまでとは何ですか？ **携挙**です。**ティアティラ教会**以降の4つの教会で、携挙について触れられるようになるんです。携挙の時まで、**あなたがたが持っているものを、しっかり保ちなさい**。という事は、**ティアティラ教会**的な教会は、世の終わりまでずっと続いていく。今もこの世界の中で。そういう意味だと思いますね。ここで言われているのは、「ムチャクチャな教えがまかり通る中で、持っているものをしっかり保ってたらいいんだ。」

私は、**残りの者**への解決策は3つあると思います。ここには1つしか書いてないけど。

解決策 1) **黙示録 2:20** **けれども、あなたには責めるべきことがある。あなたは、あの女、イゼベルをなすがままにさせている。**

だから、なすがままにさせないようにする。「間違いを教えるのをやめろ！ このイゼベル！ 俺はエリヤだ！」みたいな感じでね。「聖書の真理でない事を持ち込むな！ それは異端で、捨てるべきものだ！」と対抗し追放する。これが出来たらスッキリ・ハッキリ・クッキリします。

でも、**残りの者たち**と書いてあるから、多分ものすごく少なかったと思うねん。例えば100人くらいの**ティアティラ教会**の中で、**残りの者**が3人とします。3人が97人に「お前ら、出て行け！」と言ったら、「お前らが出て行け！」半々くらいやったら2つに別れるなりしたと思いますが、少数派が多数派に出て行けと言っても、理論上は可能だけど現実的でない。

解決策 2) 彼ら (残りの者たち) が出て行く。

こんなとこ、内側から改革しようと思っても、少数派過ぎて無理。腐った所からは出て行って、健全な教会に移る。少なくとも「聖書以外のものを神の言葉として、混ぜ物として持ち込んでいる所は NG!」という事で出て行くのはいいと思います。が、どこにも行く所がない。地方ではそういう事がありますよ。

この間、長野県の山奥の懐深い所、ある児童養護施設でお話しました。その後、あるクリスチャン女性から「いつもメッセージ聞いて、すごく慰められもするし、色々益も受けるけど、撤回してもらいたいメッセージがあります」と言われて。「な、何て言いましたか?」「黙示録の 1 回目か 2 回目で、『自分と合わないからと、色んな教会をボヘミアンみたいに渡り歩く。そういうのは何も学ばません!』と仰ったでしょ。」
そういうの、言うたな。「言いましたね。」

「でもね、どんな人が聞いているか分かりませんよね。世の中には、とんでもない教会にいて、苦しんでいる方もいらっしゃるんですよ。」

それで、色々実情を聞かせていただいて、本当に軽率だったなと思いました。色んな事情で、そこから出るに出来ないというケースもある。その場合の事を全部踏まえた上で、「あなたは今持っているものをしっかり保ちなさい。それ以上の重荷を負わせません。」

ただ、持っているものを保っている、それだけで、

黙示録 2:26 勝利を得る者、最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与える。

勝利を得る者はイエス・キリストを信じる人。信じていないと、そんな孤独な生き方は出来ません。

最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与える。

これは、千年王国で、地上を支配する権威をティアティラ教会の人たちに与えるという約束。

これらがティアティラ教会に対して言われた事ですが、ここから歴史的な事をお話したいと思います。

私は今、ギボンという人の『ローマ史』を読んでいるのですが、これがしんどい。

もうしんどいけど、折角読んだので、皆さんに益する事だけ。いい本は焦って読んだら駄目ですね。

明日とかいう時に読むと…、「なんでこんなに分厚いねん」みたいな。「投げ捨ててやるか」みたいな。

簡単に申し上げますと、**ヨハネの黙示録**は 95・96 年に書かれましたが、当時のローマ皇帝はドミティアヌス (51-96/在位 81-96) で、自分を神だと名乗っていました。

ドミティアヌスが死んだ後、5 人連続で非常に優れたローマ皇帝が登場します。

これが五賢帝時代で、ローマ帝国は空前の平和と繁栄を享受しました。パックスロマーナの夜明け。

ローマの黄金時代。ローマ帝国始まって以来、最も平和で豊かで繁栄した時代。

領土が一気に拡大されて、最大の時は、ヨーロッパを北に行くとライン川・ドナウ川、そしてシリアからエジプト・地中海沿岸全部、北アフリカ・イベリア半島に至るまで全部ローマ帝国。

それが五賢帝時代で、ドミティアヌスが 96 年に死んでから 180 年までの 84 年間。

領土が大きくなったという事は、領土の外側にはまだ敵がいるんです。一番大きくなったローマ帝国の北にゲルマン民族、東にはペルシア帝国。大きくなったという事は、それだけ国境が長くなり、そこを守るための兵隊が大勢必要で、その兵隊をどこから集めるかが問題になるのです。

例えば、ペルシアが国境越えてローマ帝国の植民地/属領のシリア州に入って行く時、どう戦いますか？ローマ帝国の本堂と言われているのはイタリア半島ですね。イタリア半島だけで日本列島と同じくらいの長さですよ。そこからシリアまで行くのは非常に遠い。だから、ローマ人の兵隊たちはそこに行きたくない。でも守る必要がある。そこでローマは属州（植民地）の民たちを傭兵として雇った。傭兵に武器と食糧を与えて、退役したらローマの市民権を与えるという条件で兵隊を募りました。当時、ローマ市民権は非常に名誉な事だったので、彼らは一生懸命頑張ります。

これと同じ事をやっているのが今のアメリカですよ。アメリカは世界中に米軍基地を持っていて、兵士がたくさん必要です。そこで、発展途上国出身の移民の青年たちに、軍に入り兵役に就いて、退役したらグリーンカードを出すと。

アメリカ軍の中で一番厳しい訓練をやるのは海兵隊。戦争になったら最初に突っ込む部隊です。

海兵隊のメンバーに白人の人は殆どいません。殆どが南米から移民で来た人たちでしょ。

辛い、苦しい、しんどい。でも退役した時グリーンカード/永住権貰えるという事で、彼らはそこに行く。

ローマはそれと同じ事をやったんですね。彼らはローマの市民権を貰うと、民会（みんかい）という所に出て選挙権が貰えるんです。選挙権で官職/コンスルとか、ローマ皇帝も選挙で選びます。

投票権を持っているのはローマ市民権を持っている人たちだけで、彼らが1票ずつ入れて、誰をローマ皇帝にするのか決めるのです。その1票の選挙権が貰えて、非常に名誉な事だと喜びました。

ところで、ローマ皇帝や高位のポジションの人たち・官僚がどうやって選ばれるかというと、ローマの広場に集まり、話し合っ、票を投じないと駄目なんです。という事は、エジプトにいるローマ市民権を持った元ローマ兵が投票するにはローマまで行かなあかん。

今やったらネットで出来るし、飛行機もあって、すぐに移動が出来ますけど。

ローマ市民権はローマにいてこそ色んな特権があるわけで、他の所にいる人たちは持ってても使えない特権なんです。「あんだけ一生懸命働いて、結局ローマ皇帝選ばれへんやないか」と段々不満が出て来た。

その結果何が起こったか？ それぞれの場所で、めいめいが勝手にローマ皇帝を選び出したんです。

ローマではローマ皇帝が選ばれ、シリアではシリアのローマ皇帝が、エジプトではエジプトのローマ皇帝が、アフリカではアフリカのローマ皇帝が選ばれた。

そうになると、ローマ帝国にローマ皇帝が何人も出て来ますねん。

このムチャクチャなローマ皇帝の時代を軍人皇帝時代と言います。ここで120ページ位。

今でいうと、例えばアメリカ大統領を決めるのに、在日米軍基地で選挙して別の大統領が立ち、在韓米軍基地でもまた別の大統領、NATO軍の基地でもまた別の。大統領だらけって、トランプ黙ってへんで。

「この状態はあかんぞ」。色んな軍人皇帝を全部なぎ倒して、武力で統一する皇帝が出ました。

ディオクレティアヌス皇帝（244-311/在位284-305）。武力で「皇帝は1人でいい!」とやるのですが、彼は考えます。「選挙権を持っているから、こんな問題が起こるんや。隣の国も皇帝がおるけど、どないしとんねん?」

隣の国はペルシア帝国。ペルシアの皇帝は世襲。皇帝の息子が自動的に次の皇帝になる。選挙しない。なぜ、そのやり方がペルシアで通じるのか? 「あなたの一族に、ペルシア帝国の王となる権威を授ける」と、ペルシア皇帝の先祖の神々が言ったから。人が投票で選んだのではなく、ペルシアの神々の総意の下で神が選んだ皇帝なので、その子供たちは代々皇帝になる。王権神授説。

神が選んだ人は地上での神の代理人という位置づけになるので、その皇帝は神として拝まれます。ディオクレティアヌスは「これ、ええやん!」そんな風に言ったんじゃないで「これは良いのう!」このシステムをローマにも適応して取り入れようと思いました。

「ローマの先祖の神々が、ローマ皇帝を選んで命じられたので、自動的に皇帝になって行く。それで選ばれたこの私は地上で神の代理人。神とイコールである。なので、私を神として拝め。」なぜローマ皇帝が自分を神と名乗ったかという、「ローマの神々によって選ばれた」と言う事によって、治安を安定させるためでもあったんです。ただ「偉くなりたい」という、そんなんじゃないんですよ。

「私を神として拝め!」と言うのですが、ちょうどその時、爆発的にローマ帝国に広がっていたのがクリスチャンでした。クリスチャンはローマ皇帝がいくら「神として拝め」と言っても絶対に拝まない。どんなに迫害されても「イエス・キリスト以外は主なる神ではない。人が手で作ったものは神ではない。まして、ローマ皇帝は指導者として尊敬はするけれど、神として拝む事は出来ない!」「だったら虐殺だ!」と大迫害が来ました。これがスミルナ時代なんです。

クリスチャンは暴力による弾圧で信仰を捨てたかという逆だったんですね。どんなに迫害されても、クリスチャンはいよいよ増え広がって行ったんです。そして遂に、ローマ皇帝が頼みとする親衛隊のメンバーの中に、皇帝の家族の中にまで、また皇帝にとって非常に役に立つ人材までもがクリスチャンになって行きました。

そんな人たちを、ただクリスチャンというだけで殺していくのは、自らの手足を、自らもいでいくのと同じではありませんか? 滅多な事では見出す事ができない超高級人材を、クリスチャンの信仰を持つてるといっただけでズバズバ殺して行ったら、結局自分の味方になる人が出て来ない。それで、迫害によるクリスチャン弾圧は失敗し、諦めるんです。

やがて、コンスタンティヌス(270頃-337/在位306-337)が出て、313年にキリスト教を公認しました。「再三(313)拒んで、今頃キリスト教公認化」。どう? 完全にドン引きの感じですね。公認という事はローマの神々もオッケー。キリストも神。両方オッケー。だから、国教ではなくて公認。この瞬間に、クリスチャンに対する迫害は終わりました。でも公認。これは中途半端なんです。

この後、テオドシウス(347-395/在位379-395)が出て来て、392年にキリスト教を国教にしました。「遂に御国(みくに)392)来たか。キリスト教国教化」。ありがとうございます。でも覚えるでしょ?

国教化とはどういう事か? ローマ市民はオギャーと産まれたら、そのままローマ市民。それと同じように、ローマ帝国で生まれた瞬間に、個人がキリストを信じようが信じまいが関係なしに自動的にクリスチャン。これは大きな問題をはらんでいますよね。

聖書が言うクリスチャンの定義は、あくまでも個人的にイエス・キリストを自分の救い主として信じ受け入れる事。家の宗教じゃダメなんです。個人的に自分で選択して、イエスを自分の主とする。国教化は、特に信仰を問わずに自動的。

そして、ローマ皇帝自身が「私はクリスチャンになった」と言うその意味は、「キリストの神が『お前はローマ皇帝になれ』と命じたので、私は皇帝になっているのだ」と言わんがための事。本当に自分が罪人で、神の前に悔い改めて…というのじゃない。それに、ローマ皇帝が自分はクリスチャンと言っている時に、「俺、キリスト嫌いやし」とか言う部下は、

首シュッと飛んで行きますよ。内心キリスト嫌いでも、「私もクリスチャンです」という事が入って来る。

迫害時代は、迫害されてもイエスを信じるという人たちが教会の構成メンバー。だから、**スミルナ教会**は純度 100%の教会。

ところがその後で、「形だけクリスチャン」がズラッと入って来る。これが**ペルガモン教会**の特徴です。

そして、今から言う**ティアティラ教会**は、その後の時代で 600 年以降です。どんな事が起こるのか？
ディオクレティアヌスから始まってコンスタンティヌス、テオドシウスで国教化ですが、ちょうどこの頃ローマ帝国は財政破綻するんです。

ローマ帝国の国境警備は傭兵によって守られていました。傭兵は給料が出るから傭兵になっています。お金出してくれないなら傭兵は集まらない。その途端、ゲルマン民族が北からローマ帝国にブワッと入って来ました。財政難の理由は、ローマ周辺の植民地（属州）が文明開化したからです。

これ、日本そっくりと思いました。1980 年代まで、日本の製品と言えば世界ナンバーワン・アジアナンバーワン。アジア中の国々はメイドインジャパンを有り難がって使ってた。

ところが、1990 年になって円高ドル安になり、技術がどんどんアジアに行ったら、もうパソコンは台湾、スマホは韓国、シンガポールも日本製品をどんどん作り出して。最初の技術の出元は日本だったけど、周囲が安くていい物を作り出して行ったら、あっという間に駄目になって行ったじゃないですか。

ローマの特産品はオリーブ油とぶどう酒。非常に高額で周辺国の穀物と交換していたのですが、ガリア地方（今のフランス）でぶどう酒を作るようになったんです。フランスワイン。ボジョレーヌーボー。そうしたら「イタリア以外でワイン作れるやん。もしかしたら、こっちの方が上かも。」
イタリアのぶどう酒、もう買ってもらえない。今までは輸出超過だったのが輸入超過になって、財政が駄目になって行き、予算がなくなったので、傭兵を集める事が出来なくなった。

それでゲルマン民族が入って来て、特に西ヨーロッパ・西ローマ帝国では、ゲルマン民族が勝手に国を造り出します。ローマ帝国の中に。そしてとうとう、西ローマ帝国は 476 年に空中分解で滅びるんですよ。「西ローマ帝国、死なむ (476)」。ちょっと無理。「死なん (476) と言って滅びた西ローマ帝国」。大分無理。

ゲルマン民族は戦闘武闘集団ですが、ローマ帝国全体の人口の 1 割くらいしかいない。皆さん、1 割の異文化が入って来たら、国をひっくり返すんですよ。ほんまに。

ゲルマン民族が西ローマ帝国に入って支配したけど、ローマ帝国は滅んでも、ローマ人そのものは残ってますね。旧ローマ市民は圧倒的多数です。なので、これを手なずけるために、好意的に見てもらふ必要がある。そのために使ったのがカトリック教会です。

当時西ローマ帝国に、カトリック教会という 1 つの大きな教会の組織がありました。
ゲルマン民族の王様が入って行った時、カトリック教会のローマ法王から「お前が次の王になれ」と言ってもらふ事で、ここで国を造ったんです。ただ腕力だけで「ここは俺が仕切るからな!」ではない。
ローマ帝国中の人たちが信頼しているカトリック教会のトップ/ローマ法王が「ゲルマンの王よ、あなたがこれから王になれ」と、お墨付きを与えてくれたのです。日本の天皇と将軍の関係ですよ。
権威ある者が権力ある者にポンとハンコつく事によって、正当性を持つという事です。

さて、ローマ帝国がどんどん壊滅して行く過程の中で起こったのは治安の悪化です。色んな所で強盗・殺人・荒らし回る武闘集団がいっぱい出て来てムチャクチャ。国はもうない。国が守ってくれないなら、自分で自分を守るしかない。守れる強い人はいいけど、その力がない人はどうするか？自分が持っている不動産をその人たちに差し上げて、代わりに守ってもらう。日本の戦国時代・荘園時代と一緒です。それでこれ以降、ヨーロッパに封建制が出来るんですね。旧西ローマ帝国中に、腕力の強い地方の豪族・地方のヤクザの親分みたいのが、もういっぱいいる。大勢の暴力集団が緩やかに繋がって、その頂点に乗っかっているのがゲルマンの皇帝みたいなものです。

ゲルマンが入って、西ローマ帝国に大きな国を造りました。それをフランク王国と言います。フランク王国は今のフランスとドイツとイタリア。やがてこれら3つに別れますが、別れた後、ドイツとイタリアのエリアが1つになって、神聖ローマ帝国という国を造ります。神聖ローマ帝国は、神聖なローマ・カトリックを守る帝国という意味。

どうしてこうなったのか？治安がどんどん悪くなって行った時、ものすごい財産と武力を持っている団体がありました。それがカトリック教会です。ヨーロッパ中に教会があるので情報網を持っています。ラテン語の読み書きが出来る専門頭脳集団です。色んな人が寄進・寄付するので、たくさんの不動産を持っています。そして、〇〇騎士団という、カトリック教会が所有する不動産を守るための武装集団を持っています。比叡山の僧兵みたいなものですよ。

だから、神聖ローマ帝国の皇帝は、皇帝と言ってるけど、武力でヨーロッパ全土を治めているのではない。古代ローマ帝国のような絶対権力を持ちたいけど、ヨーロッパ全土にはヤクザの親分みたいのがいっぱいいて、それをしようとしたら地方の豪族たちが反対する。彼らを黙らせるためには、教会を味方につけるのが一番いい。それにはどうしたらいいのか？オットー1世(912-973/在位936-973)が何をしたか？

ローマ法王はカトリック教会の司教の中から選挙で選ばれます。これをコンクラーベと言います。カトリックの聖職者の方々は生涯独身。亡くなると、自分の子供に継がせる事が出来ないのでポストが空きます。オットー1世は法王によって神の代理人、「あなたは王になれ」と信任を受けているので権利があり、自分の家族や家臣を片端から「あそこ空いたから司教になれ」と、司教が死んだ所に入れて行きます。この司教たちの投票で法王が決まるわけ。

一旦司教や法王になったら、絶大な力があるので譲りたくないですね。それで、法王が愛人困って子供をたくさん産ませている。父親はほんまは自分やのに、「あなたはお父さんがいないのか。可哀想に。私の養子になりなさい」と引き取って。引き取っても何も、自分が産ませた。そして、次の法王にしている。そういう時代。それが**ティアティラ教会**の時代なんです。

法王と言っているけど、聖書を読んだ事ないし、そもそもラテン語出来ないから読めないし、まともなメッセージなんかした事もない。やってる事と言ったら飲む・打つ・買う。そう人たちが法王の座に就く。そして、「法王は絶対に間違わない」という教理の上に乗っかっているんで、次から次へと合い入れない事を述べるようになるんですね。歴史的に見たら、カトリック教会はそこを踏襲していると思います。

ただし、**ティアティラ教会**に少数派だったけれど本物のクリスチャンがいたように、カトリック教会の中にも本物のクリスチャンがいます。しかし大きな流れとしては、例えば先程、教会の中に偶像があると書いてありましたが、マリア崇拜とい

うのがありますよね。なぜマリアを拝むんですか？マリア崇拝・聖人崇拝があるんです。イエスに祈るのは、あまりにもおこがましい。しかし、イエスもマリアの言う事は聞くからマリアに言う。だけど、マリアに直接言うのはおこがましいので聖人に頼む。聖人はマリアに頼む。マリアはイエスに頼む。イエスは父なる神に頼む。と、どんどん増えて行く。そんなん、どこに書いてある？

「神と人との仲介者はただ一人であって、それはイエス・キリストです」と書いてありますよね。聖書に書いてない教理がどんどん入って来て、それが誤りを犯さない方の御言葉であると言って、聖書と同列に並び出す。当然の事ながら混乱するのです。

ただし、カトリック教会の中に本物のクリスチャン、尊敬すべきクリスチャンはたくさんいますよ。私も何人かの方が書いた本が、愛読書の中にあります。教えられる事が非常に多いです。でも、そのシステムを考えていくと、このような問題があるという事なんですね。

結論としては、ここは日本なので、もしそういう所にいるのなら、出るのがいいと思います。何も「私たちは完璧や」とか言うつもりはありません。ただ、怪しい者ではありません。ある方は「怪しい者に限ってそう言う」と言うんですけど、ほんとに怪しい者じゃない。基本的には、やはり健全な教会の中に加わるのが本当に大切な事です。

昔バングラデシュで、カマラとアマラという女の子が見つかりました。狼に育てられたので狼少女と言われて。カマラは14歳。アマラは7歳。狼の穴倉に住んでいるのを女性宣教師に発見されて、皆で助けに行ったら、最初にオス狼が出て来て「グアルルー！」で、逃げた。ところが、お母さん狼は逃げない。体を張って、我が子のように育てたカマラとアマラを守るんですね。そのメス狼は撃ち殺されました。

2人は施設に引き取られましたが、しばらくして、妹のアマラは文化に順応できなくて死ぬんです。死んだ時、お姉さんは両目から一粒ずつ涙流しただけで、後は泣かなかった。自分と同じ境遇のたった1人の人が目の前で死んでしまったのに、「あー」と泣く事はなかった。ただ1週間、食事しなかった。それが、彼女の悲しみの表し方でした。

なぜ泣かなかったかという、悲しい時には泣くという事を学習していなかったから。悲しいと自然に涙が出ると思っているでしょ？実は、あれは後天的に身に付けたものだそうです。狼は悲しい時、オイオイと涙を流す事はしない。だから、そんな悲しみの表現を学んでないので、とっても悲しいんだけど、涙は一粒ずつしか出なかった。

そして、人間の世界に入れられて色々やるけど、言葉は20くらいしか覚えられませんでした。人間として生まれても、狼に育てられたら、人間らしく育つ事は出来ないのです。ある意味で、いびつな発達しかできなかつたんですね。

同じように、クリスチャンも神の子として生まれても、神の子の家族の中に受け入れられて、そこで躰けられたり・愛されたり・育まれたり・そういうプロセスを通らないで、一匹狼で、ただ聖書を読んでいるだけでは、中々難しい面があるんです。なので、健全な教会に集われる事を、心からお勧めしたいと思います。

私は幼い時に父を亡くしたので、お父さんのイメージが分からない。

でも教会に来て、この集会に加わって、疑似家族というか、本当の血の繋がった兄弟姉妹じゃないんだけど、それ以上に「家族愛ってこういうものなのかな」という事を後天的に経験して、自分自身が癒され、人間としてもまともになって行ったんじゃないか。

「まともで、それか」と言われたらそこまでなんですけど、随分癒されたんじゃないかと思います。皆さん、是非そのようにしてください。

今日はカトリックの事を言ってしまいましたが、次回のサルディスはプロテスタント教会。これがカトリック以下。「生きてると見えてて死んでいる」と書いてあるんです。ひどいですよ。僕は教会史を学んで、読めば読むほど失望しますわ。もう「な、なんやねん、これは…」と言いたくなる。

残念な事に、その教会史の前に、それとピッタリの事が黙示録の中に書いてあるのです。ものすごく的確です。神の言葉が、書かれてある通りに実現するんですね。

是非、聖書を頼りに、キリストのもとに立ち返ってください。心からお勧めしたいと思います。

~~~~~  
\* 動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」

\* ラジオ番組「聖書と福音」(約 14 分) も是非どうぞ。YouTube もあります。

\* YouTube 「ごうちゃんねる」(約 10 分) もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi